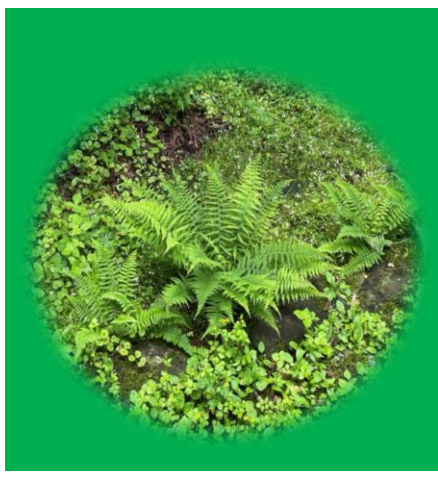


世界遺産とともに生きるまち
大森町住民のコミュニティ・ウェルビーイング

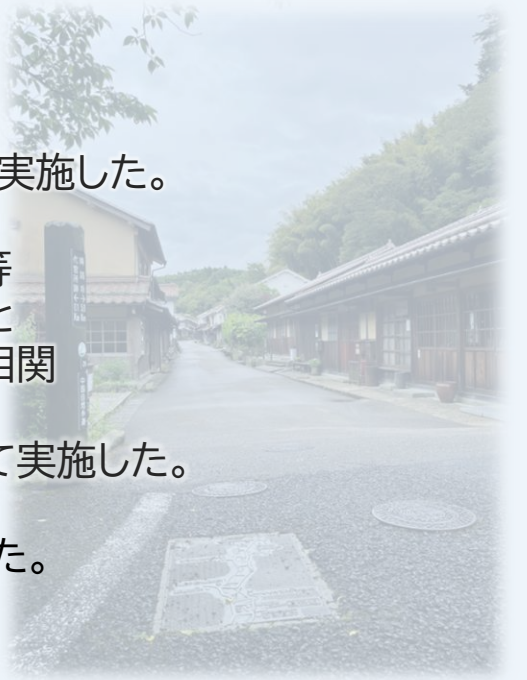
島根県立大学出雲キャンパス
石橋照子、小川智子、大森眞澄、小田美紀子、佐藤美紀子、加藤さゆり、松谷ひろみ
吉松恵子、荒木さおり、板持智之、日野雅洋、松本祐香、矢島史江

➢ 研究の概要

石見銀山を有する大森町は、世界遺産として町並みを歩く観光地でありながら、現在も人々の暮らしが根付く世界的にも珍しい地域である。大森町では、そこで変わらず暮らし歴史と景観を受け継ぎながら、近年では、移住者を積極的に受入れるなど新旧が融合するあらたな地域づくりが展開されている。本研究では、大森町民のウェルビーイング（幸福な状態）につながるコミュニティの特徴を探求し、固有の歴史と文化を継承する地域のコミュニティ・ウェルビーイングを明らかにする。研究を通して、歴史文化を守りながら世界遺産とともに暮らす人々のウェルビーイングを健康づくりから支援する。

➢ 取り組み（1） 実態調査

地域の方々の健康状態・ウェルビーイングの実態の明確化



【調査方法】 大森町で暮らす全成人307名を対象に，無記名自記式で任意のアンケート調査を実施した。
【調査内容】 年齢や居住年数といった基本属性と主観的幸福感尺度（伊藤ら，2003），
地域保健活動の推進に活用できるソーシャルキャピタル尺度（河原田ら，2017）等
【分析方法】 主観的幸福感とソーシャルキャピタルとの関連は，主観的幸福感尺度の合計得点と
ソーシャルキャピタル尺度の合計得点および下位因子毎の得点をSpearmanの相関
係数を算出して分析した。
【倫理的配慮】本研究は，島根県立大学出雲キャンパス倫理審査委員会の承認（No.406）を得て実施した。
【結　果】
・調査票の回収は122名（39.7%）であり，有効回答数は106名（有効回答率34.5%）であった。
・回答者の平均年齢は，59.4±17.5歳であり，平均居住年数は，28.3±22.8年であった。
・主観的幸福感は，ソーシャルキャピタルの合計と正の相関（ρ=.544. <.01）があり，
下位因子の「地域の人々との信頼と支え合い」と正の相関（ρ=.554. <.01）が認められた（表）。

【結　論】
大森町の主観的幸福感（ウェルビーイング）には、地域で暮らす子どもや高齢者の方々の安全を気にかけて見守るご近所同士のつながりが関連していることが明らかになった。

表　主観的健康観とソーシャルキャピタルの関連

	ソーシャルキャピタル					
	合計	地域の人々の信頼と支え合い	目的縁による仲間づくり	まちの専門職への親和性	地縁による関わり	近隣とのお付き合い
主観的幸福感	.544**	.554**	.392**	.246*	.466**	.459**

Spearman's rank correlation coefficient
** p<.01　* p<.05

➢ 取り組み（2） まちを楽しくするライブラリーを活用した健康教室

教室での様子

日　時	内　容	参加者	会　場
11月17日 10:00～14:00	血圧・体脂肪・体組成・血管年齢等を測定します	34名	大森まちづくりセンター
11月20日 14:00～15:00	骨密度測定できます 骨粗しょう症の予防	1名	島根県立大学サテライトキャンパス（旧松原屋）
12月18日 14:00～15:00	近年増えている心不全 お家でできる心不全予防	2名	
1月 8日 14:00～15:00	みんなで取り組もう こころの健康	5名	
1月26日 10:00～12:00	近年頻発している災害 避難所生活を健康に過ごそう	18名	大森まちづくりセンター
2月27日 10:00～11:00	うちの子寝ない子かしら 親子の睡眠学（共催：森のどんぐりくらぶ）		大森児童クラブ渡辺家
3月19日 10:00～11:00	ニオイを嗅いで認知機能の低下を早期発見		島根県立大学サテライトキャンパス（旧松原屋）

➢ 取り組み（3） 地域組織の方々との協働

文化祭での様子

自主防災会との共催

➢ 今後に向けて

今後は、地域の未来を考えるコンソーシアムの方々や大森郵便局の方々と協働し、地域で暮らす子どもや高齢者をより安全に見守るご近所同士がつながるコミュニティの創成に取り組んでいきたいと考える。